

島根県公立小中学校
事務職員研究会

会長：吉賀孝則
(浜田市立国府小学校)

編集：情報部

VOL.75 2022.12.12 (時雨号)

発行責任者 坂井 佳恵 (大和中学校)

島事研ホームページ
<http://shimajiken.com>



爽



【目次】

- ▶ 研究大会を終えて (副会長)
- ▶ 研究部コーナー
- ▶ 第52回研究大会 参加者の感想
- ▶ 奥出雲町の共同実施について
- ▶ 学校紹介
- ▶ まんが「しまじいとけんくん」
- ▶ 編集後記



研究大会を終えて

副会長 横貝 淳子

秋晴れの11月11日、第52回島根県公立小中学校事務研究大会が江津市総合市民センターを会場に、教育関係諸機関・団体のみなさまのご支援・ご協力により、3年ぶりに参集型で開催することができました。

新型コロナウイルス感染症の第8波が懸念される中での開催となり、浜田教育事務所管内研究大会準備委員会のみなさまには感染対策にご配慮いただきながらの準備となり大変お世話になりました。当日は多くの方にご参加いただき実り多い研究大会となりましたこと、心から深く感謝しております。ありがとうございました。

朝、受付ではたくさんの「久しぶり～!!」の言葉が交わされ、懐かしい方々の顔を拝見することができました。まずここに参集型の意味を見た気がしました。近年、ICT環境が劇的に整備され、会場に行かなくても研修や講義が気軽に受講できるようになりました。たしかに移動時間や交通費等に縛られず、興味関心のあることを積極的に受講できることはメリットだと思う反面、会場の空気感や参加者のみなさんとのつながり感はやはり参集型でなければ得られない貴重な時間であるとも思います。受付時に拝見したみなさんの顔がそのことを物語っていた気がしています。もちろんオンライン等のよさもありますので、今後も内容や状況に応じた様々な形を検討していく必要があると感じています。

午前中は基礎研究発表として4名の方に実践発表をしていただきました。みなさんが校内で、市町村内で、そして事務グループでつながり、一緒に実践しておられることに、私だけでなく多くの参加者が刺激を受け、自校でも実践したいと感じたのではないのでしょうか。第六次研究中期計画は始まったばかりですが、こうした実践を共有することで研究を身近に感じる人が増えたのではないかと思います。講演のなかにもあった「教育のミッションは幸福度をあげること」のために、これからもつながり、周りを巻き込みながら、楽しんで実践を重ねていければと思っています。

さて、いよいよ令和4年も残りわずかとなりました。まだまだ制約が多くWithコロナの日常は続きますが、子どもたちにとっても私たちにとっても大切な“今”です。幸せな“今”を過ごせるように、島事研としても取り組んでいきたいと思っていますので、今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

★お知らせ★ 島事研ホームページをリニューアルしました！ 新URL <http://shimajiken.com>
わかりやすくお伝えできるホームページを目指しますので、よろしくお願いいたします。



研究部コーナー

他都道府県の研究大会と島事研の研究



先月、数年ぶりに参集型での研究大会が開催されました。
 研究発表についても、4人の発表者の方と一緒に準備を進めてきました。
 まだまだ新型コロナウイルスの感染状況が落ち着かない中、特にステージ発表については発表者・研究部員の顔を見るまでは不安でしたが、無事に終わってよかったです。
 発表者の皆さま、そして準備委員会の皆さま、大変お世話になりました。ありがとうございました。

さて、今年度の研究部コーナーのテーマは「島事研という組織の外を意識しながら、研究に関する情報発信をしていく」となっています。

そこで、今回は研究大会について、他の都道府県の様子を紹介しながら、島事研の研究大会について考えてみたいと思います。

○今年度島事研研究大会の内容

9:40	10:10	10:30	12:10	12:40	13:40	15:20	15:40
受付	開会行事	基礎研究発表 第六次研究中期計画について	総会	移動 昼食	講演	閉会行事	

- ・研究発表は全体会形式
- ・総会がある
- ・1日開催

○A県の研究大会の内容

9:35	9:50	10:00	10:30	10:35	11:20	11:30	12:15	13:05	15:05	15:15	15:40	15:50
受付	開会行事	行政説明	休憩	分科会1	休憩	分科会2	昼食	講演会	休憩	研究委員会報告	閉会行事	
(15)	(10)	(30)	(5)	(45)	(10)	(45)	(50)	(120)	(10)	(25)	(10)	

- ・行政説明がある
- ・研究発表は分科会形式
- ・1日開催

○B県の研究大会の内容

12:30	13:00	13:20	14:30	14:40	16:00	16:30	16:40
受付	開会	講演	休憩	実践共有 (グループワーク)	講師総括	閉会	

- ・グループワークがある
- ・講師の大会総括がある
- ・半日開催

○C県の研究大会の内容

12:50	13:15	13:20	14:50	15:00	16:30	16:35
受付	開会行事	研修2 (講演)	実践発表	研修3 (研究部)	閉会行事	

- ・研修1は研究集録に掲載
- ・実践発表は短時間
- ・半日開催

※研修1は研究集録内に資料を掲載します。

それぞれに特徴がありますね。機会があれば、ぜひ他の都道府県の研究大会にも参加してみてください。

ことわざに「三人寄れば文殊の知恵」とありますが、研究大会をはじめとした各種大会は、業務・仕事を行うための知識や知恵を知り、聴き、考える場だと考えます。

島事研では研究大会を「知る・聴く・考える＝インプット」する場、セミナーをインプットだけではなく「伝える・話し合う＝アウトプット」する場として設定しています。

ぜひ、その両方に参加していただきたいと思いますし、他の都道府県の内容も見ながら、どんな研究大会にすれば学びを深められるのか、皆さんも考えてみてはいかがでしょうか。



第52回島根県公立小中学校事務研究大会

今年度は3年ぶりの参集型での開催!

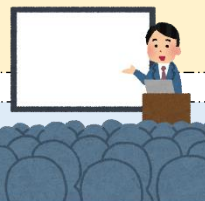
参加された皆さんはいかがだったでしょうか?

開催日：令和4年11月11日（金）
会場：江津市総合市民センター
（ミルキーウェイホール）

参加者の感想

基礎研究発表

- ・他の方の実践発表を聴くことで、自分の自己目標の設定から次年度の展開までを振り返ったり、新たな気づきを得ることができたりなど、今後の実践において参考にしたいと思いました。
- ・教職員を巻き込んで実践され成果を出していく点が素晴らしいと思いました。本校で実践できそうなことから参考にさせていただきたい。
- ・研究を身近に感じた。研究と考えず、自分の課題解決をする方法やその取組をまとめ、自分の学校がより良くなる方法を考えていきたい。
- ・それぞれ、日頃の実践をきちんと振り返り次に繋げていたと思う。自分もやってみたいと思える発表だった。もっとバージョンアップしてつかさどるためにはなにをすれば良いのか考えるところまで話し合えたら良かったと思う。



講演『「つかさどる」の本質を探って』

- ・聞きやすくわかりやすいお話でした。最近、研修会研究会では必ずといっていいほど「つかさどる」がテーマになって、実はプレッシャーを感じていました。「つかさどる」は「+つかさどる」ということではない、というお言葉に、少し肩の荷がおりた気がします。
- ・学校教育において、「幸せ」を考えることはとても大切なことだと思いました。私たち学校事務職員は改めて「つかさどる」の意味を考え、行動し、試行錯誤しながら、学校に関わる全ての人が「幸せになる」仕事を追求していかなければならないと思いました。そのためにも自分自身ができることから少しずつ、楽しみながら実践していこうと思います。
- ・講師さんが血洗いを体験した、黎明期～達人期の意識・行動の変遷についての説明が「つかさどる」ことを考える上で分かりやすいと思った。単純に仕事をこなすのではなく、改善案を提言することや共同で業務を行うことがつかさどることではないか。

今大会の感想

- ・3年ぶりに参集型による研修だったが、他校の事務職員と対面で情報交換をすることができ有意義な大会だったと思う。校内事情により会場での参加が難しい場合もあると思うので、オンライン参加もできる形だとより良い大会となると感じた。
- ・この大会に初めて参加しましたが、多くの事務職員の方と話すことができたり、勉強になったことが多くあったりと、とても充実した大会になりました。
- ・自分から何かやってみようと思うとその一歩がなかなか踏み出せないというのがありましたが、発表や講演を聞いてちょっとしたことでいいんだとやってみようかなという気になりました。これまでキントーンも見ることが少なかったのですが、もっとこまめに見ないといけないなと感じました。ありがとうございました。

奥出雲町の共同実施について

奥出雲町では、平成16年度に加配を伴う共同実施が始まり、今年度で19年目を迎えます。この19年間で社会情勢の変化と共に学校を取り巻く情勢も複雑・多様化し、学校に求められる役割は以前にも増して多くなり変容を求められています。総務や財務等に通じる専門職であるという確かな強みを持って、学校運営に参画していただけるように協働することが必要となります。

奥出雲町の共同実施は、中学校2校、小学校10校で構成され、「奥出雲町立小中学校の事務を組織的、かつ、集中的に処理することによって、学校運営を適正、かつ、効率化し、きめ細かな学習指導や教育の情報化の支援等を行うため、学校事務を共同で実施する」ことを目的として活動をしています。

中学校区を単位とする仁多・横田地域グループは、学校連携を主にグループごとの特色ある取組を行っているところです。また、町全体を情報部・財務部の専門部会に分け、学校運営機能の強化につながるように活動を行っています。近年、大きな取組・改革は行えていないですが、これまで培ってきたノウハウを生かしながら、一つ一つの業務を見直すことで、事務機能の強化と学校運営力の強化につながっているものと思います。

しかしながら、事務リーダーの未配置や職階の偏りもあるため、業務配分が十分にできず一部の事務職員に負担がかかっていることも現状です。また、奥出雲町は小学校再編統合により、統合後は小学校2校、中学校2校となることが決定しています。これまでと同じような共同実施業務を続けることは困難になると思われるため、業務の見直し、組織の見直しも必要となっています。このことはこれまでの共同実施の取組や学校連携の成果を発揮できるよい機会でもあると捉えています。教職員の連携、統合校の連携をより強固なものとし、事務職員が積極的に関わることで円滑な移行処理ができるものと考えています。

今後も教職員の負担軽減や円滑な事務処理など共同実施の目的達成に向けて、活動をしていきます。

企画委員会

学校事務の共同実施活動を円滑に行うため、事業全般の企画・運営に携わる

- 1 企画・運営 協議会及び共同実施会の企画・運営を行う。また、共同実施活動推進に関する必要な事項について協議をする。
- 2 その他 資質向上を図るため各種事務研究会・研修会への参加推奨を行う。



地域グループ活動

各学校の事務や各専門部の業務を共同処理や相互支援等で確実に進めることにより、事務職員のスキルや専門性の向上とともに事務の平準化を図り、町内全体の学校運営力が高まるよう活動をすすめていく。

- 1 地域会・全体会 両中学校を中心とした地域会で専門性の向上や事務の平準化に向けた取組を行う。
- 2 相互支援の強化 事務職員未配置校の支援や学校現場における現場研修など地域グループ内での連携を強化し、各校の業務が滞りなく処理できるようすすめる。



財務部

財務事務を組織的に行うことで、予算の有効活用及び保護者負担・教員の事務負担軽減を図り、教育課程がより豊かになるように活動をすすめていく。

- | | |
|-----------------|--|
| 1 小中学校教育振興交付金取扱 | 各学校や組織の申請、報告に関する処理が効率的に行われ、予算が効果的に活用されるよう調整を行う。 |
| 2 予算要望 | 校長会、共同実施、教育委員会との連携を深めながら、具体性のある予算要望書を作成し、予算の確保を図る。 |
| 3 児童生徒輸送バス調整 | 自動車借上げ予算の管理や関係行事担当者との連携をしながら、各行事が円滑に実施できるよう支援する。 |
| 4 備品管理 | 各校における備品の管理・運用を支援し、適正な備品管理を行う。 |
| 5 共同購入・手数料一括処理 | 計画的なとりまとめや教育委員会との連携により、事務の効率化と予算の有効活用を行う。 |

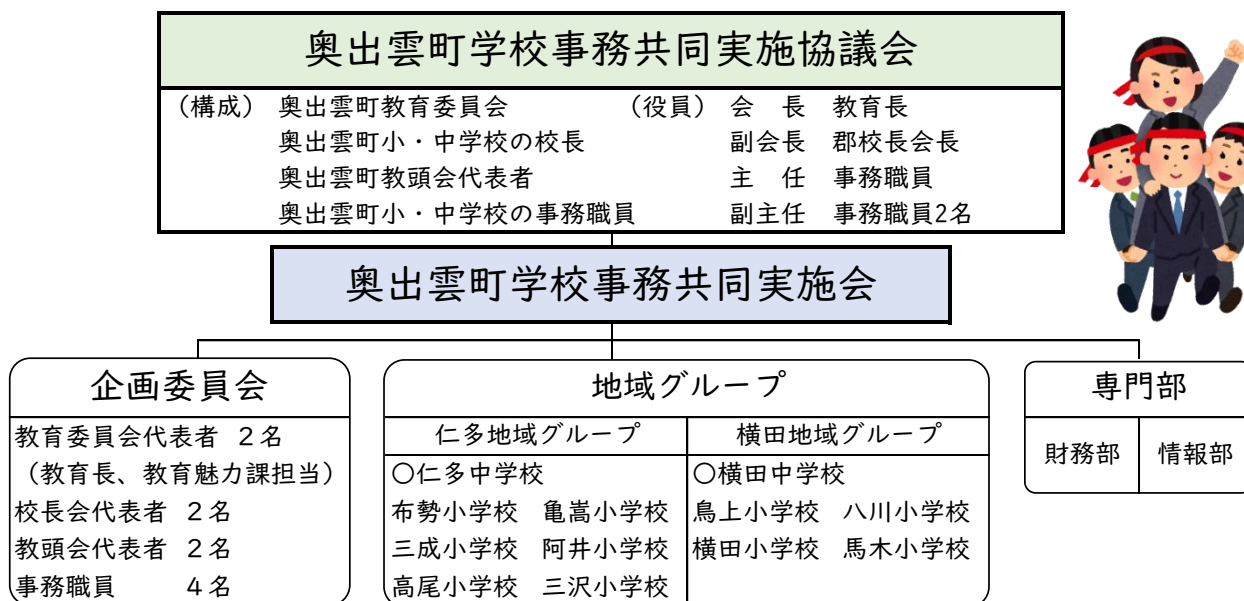


情報部

ICT環境の充実と活用推進、また情報管理などの業務を行うことで、学校運営が組織的・効率的に行われ、学校の教育力がより向上するよう活動をすすめていく。

- | | |
|------------------|---|
| 1 共同ファイルサーバー活用推進 | 共同ファイルサーバーの利用により、各種業務が効率的・効果的に行われるよう、適切なデータ管理及び活用を推進する。 |
| 2 学校用グループウェア活用推進 | 町教委・情報担当部署と連携しながら学校用グループウェアの管理を行うとともに、全職員が有効活用できるよう情報提供を行う。 |
| 3 情報提供・業務支援 | 共同実施がより効果的なものとなるよう情報提供を行う。また、各種業務が効率的に行われるよう各種システム提供を行う。 |
| 4 文書管理支援 | 文書分類表の見直しや電子データの保存について、統一した管理と実態に即した効果的な活用ができるように支援する。また、各種システムが継続して活用されるよう管理を行う。 |
| 5 マニュアル管理 | サーバー内の手引き等が最新の状態となるよう更新・整理を行い、全職員が活用できるようにする。 |

奥出雲町学校事務共同実施協議会及び共同実施会の組織図



学校紹介 出雲市立向陽中学校

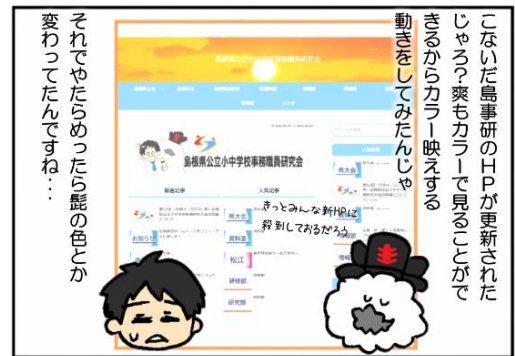


主任主事 小山 瑞貴

出雲市立向陽中学校は宍道湖沿いに佇む新しくきれいな学校で、1年生77名、2年生51名、3年生68名の全校生徒196名が通っています。生徒はみんな穏やかで、落ち着いた雰囲気为学校の持ち味となっています。校訓の「希望」「友愛」「創造」を指針に学校生活を送っています。

向陽中学校の自慢のひとつはあいさつです。というのも向陽中学校の目標のひとつに「あいさつ日本一」を掲げており、教職員や来校者、地元の方々に明るいあいさつをすることを心掛けています。あいさつをするときは自分から笑顔で、という「先手必笑」も向陽中学校にとっては大事なキーワードです。向陽中学校の生徒は教職員や来校者を見かけると、たとえ部活動中であっても手を止め元気よくあいさつをします。向陽中学校に来られた方の中にはその姿を見て感心し、驚かれる方も多いです。私も赴任した時は驚きました。向陽中学校に来る機会がある方はぜひ向陽中学校の「先手必笑」のあいさつに注目してみてください。

そんな向陽中学校は今年開校10周年という大きな節目を迎えました。このめでたい年を祝うために記念体育祭、記念文化祭などのイベントを学校全体で取り組み、成功させることで盛り上げてきました。そして11月23日に10周年を祝うメインイベントである10周年記念式典が行われました。吹奏楽部と卒業生による演奏や、タレントである副島淳さんをお招きしての講演など盛大な催しになりました。生徒、保護者、地域の方々、教職員、その他関係者の皆様とこの特別な1年を祝うことができました。学校一丸となって良いものを創ることができる向陽中学校をこれからもよろしく願います。



原作・画 : 佐伯 圭一

【編集後記】

ここ数年、子どもの頃からテレビで見えていた有名人の訃報が多くなったと感じる。私がそれだけ生きてきたことなのかもしれないが、自分自身の成長と共に生活の一部として過ごしていただけに、何とも言えない寂しさを感じる。時代の移り変わりをまさに目の当たりにしている今日この頃である。(D.I)